

## 第 51 回 歴史リレー講座「聖武天皇の譲位・出家」 本郷 真紹氏 (H30.12.16)

聖武天皇は男性天皇で初めて生前譲位を行い、しかも天皇として初めて出家しました。その譲位を可能ならしめたのが仏教の教えと、仏教に深く帰依した妻の光明皇后でした。来年は平成最後の年で譲位が行われるということもあり、本日は聖武天皇の生涯と仏教との縁についてお話ししましょう。

聖武天皇は大宝元年（701）生まれ。父は文武天皇、母は辣腕政治家かつ知識人だった藤原不比等の娘、宮子です。この年は日本で初めて律令が制定され、また元号が体系的に使われ始めた古代国家確立の年でした。そして宮子の異母妹である安宿媛（あすかへひめのちの聖武天皇の妻、光明皇后）の母があがたいぬかい県犬養三千代。三千代は文武天皇と聖武天皇の二代に渡って乳母を務めたことから、絶大な権力を振るった高級女官でした。もともと皇室家の直轄地である県を管理する一族の娘で、その本拠地は河内の辺りだと考えられます。ここは渡来人が長らく独自の仏教文化を育ててきた地なので三千代の人生にも大きな影響を与えたのでしょう、晩年には出家しています。ちなみに、安宿媛の安宿は地名として柏原市に明治時代まで存在しました。

父の文武天皇が 25 歳で早逝したとき、おびと首皇子（聖武天皇）はまだ 7 歳。そこで次の天皇に皇子の祖母が中継ぎとして即位（元明天皇）しました。私たちには理解しにくいことですが、以下のように推察します。これに先だつこと 17 年前、中国の則天武后は自分の息子から皇位を取り上げ、元号を唐から周に変えました。遣唐使（正確には遣周使）が謁見した皇帝も則天武后でした。彼らが帰朝した際、則天武后即位の経緯を伝えたことにより、時の政府は上の世代の人物への譲位というやり方に倣ったのではないのでしょうか。

平城遷都の 5 年後（715 年）、元明天皇は首皇子がまだ天皇にはふさわしくないことと、自身の高齢を理由に娘（文武天皇の妹）に譲位し元正天皇を即位させます。ようやく聖武天皇が即位するのが神亀元年（724）。その 3 年後には光明子（安宿媛）との間にもとい基王が誕生。立太子となるも翌年に夭折したため光明子は息子を弔うために東大寺の前身、こんじゅ金鐘山房を創建します。しかし、天平元年（729）には長屋王の変が勃発し長屋王らは自害。その後光明子が皇族以外から初めて皇后の座につき、華やかな文化の花咲く天平時代が始まりました。

聖武天皇にとって光明皇后は大きな支えであり、皇后の政治への影響力は相当大きかったようです。同 13 年（741）に聖武天皇は国分寺と国分尼寺建立の詔を出し、さらに恭仁京へと遷都。国分寺や東大寺の建立は皇后の勧めだったといわれます。その後、難波京を経て再び平城京に遷都されたのが同 17 年（745）。同 21 年（749）、病床の聖武天皇は自身の影響力が衰えないうちに阿倍内親王に譲位し、女帝孝謙天皇が誕生しました。長阿含經によると 4 つの大陸で成り立つ世界を支配しているのがこんりんじょうおう金輪聖王ですが、年齢を重ね身体が弱ってくると自ら位を子に譲って出家します。このストーリーを参考にしたおかげで聖武天皇の生前退位がスムーズに行われたわけです。聖武天皇は出家後はしゃみしょうまん沙弥勝満と名乗って薬師寺で暮らし、天平勝宝 8 歳（756）6 月に崩御しました。そのため、正倉院御物の中には天皇帝用の袈裟が伝わっています。

孝謙天皇誕生の際、光明皇后は自らを金輪聖神皇帝と称した則天武后の政策を大いに参考にするとともに、大乘仏教の集大成である法華經の理念を最大限に活用しました。女性こそが仏教の担い手であり、菩薩が女性に身を変えて仏教の教えを説く。すなわち、法華經の教えは女性天皇を正当化するための理論武装でした。また、皇后は聖徳太子の仏教精神を掘り起こすため、元の斑鳩宮に法隆寺東院（夢殿）を造らせ、さらに自身の宮を造り替え法華寺としています。仏教の救済理念に従って悲田院や施薬院を設立するなど慈善事業にも尽力しました。聖武天皇、孝謙天皇の時代は仏教に帰依した母の影響を如実に受けた光明皇后ならではの政策が開いた時代だったともいえます。